

1 . 平成 1 5 年度事業報告書

1 . 概 況

平成 15 年度の重点活動として次の 5 点を掲げた：(1) 会員サービスの充実，(2) 研究活動の活発な展開，(3) 産業界への貢献，(4) 国際化の推進，(5) 学会運営の効率化。これらについて振り返る。

1.1 会員サービスの充実と産業界への貢献

- (1) 学会 Web サイトの訪問者が訪問目的を的確に達成できることを目指して、学会 Web サイトを大幅にリニューアルした。
- (2) 個人情報保護法の制定に伴い、本法に照らしてプライバシーポリシーを改訂した。
- (3) 9 月 10 日付け法制審議会答申「ハイテク犯罪に対処するための刑事法の整備に関する要綱（骨子）」に関して、我が国における健全な情報技術の発展を阻害しないよう、IT の分野に責任を持つ専門家の集団として、法務省法制審議会に対して意見書を提出した。
- (4) ホームページ、電子図書館、メールニュース、マネジメントシステムの充実等により、各種情報発信ならびに各種サービスの充実に努めた。
- (5) 産業フォーラムについては、主として産業界への本会活動の周知による入会促進を目的に、11 年度からテーマ、コーディネータ、破格の参加費で、連続セミナーと同レベルの講師陣を迎え、先端情報技術に関する情報交換を行ってきたが、入会促進の目的は果たせず、また特定の講座以外は集客力も無いため廃止し、今後は連続セミナーに吸収する。
- (6) 連続セミナーについては、参加者は減少、且つ 1 回分のみ申し込みが増加と苦戦しているが、回収したアンケートではコーディネータ・講師の情熱がそのまま聴衆の反応となっている。今後の運営方法の参考とする。
 - 12 年度 参加者：210 名、テーマ：ネットワーク社会と IT
 - 13 年度 参加者：169 名、テーマ：21 世紀のネットサービス社会
 - 14 年度 参加者：111 名、テーマ：次世代ネットワーク環境における基幹技術
 - 15 年度 参加者：165 名、テーマ：ユビキタス社会の実現に向けて
- (7) 情報科学技術フォーラム（FIT）については、第 2 回目の開催を迎え、査読付論文・総発表件数とも増加し、各研究会の協力もあり、定着しつつあると言える。今後は情報系他学会の参画を大いに要請し、各方面からの最新テーマの発表の場とし、情報系分野の学協会の最大のイベントにすることが会員サービスの充実に繋がる。
 - 14 年度（第 1 回 FIT2002） 場所：東京工大、発表件数：863 件、参加者数：1,817 名
 - 15 年度（第 2 回 FIT2003） 場所：札幌学院大、発表件数：1,099 件、参加者数：1,969 名

1.2 研究活動の活発な展開

ジャーナルの編集については、研究会各領域委員会のメンバを加えた特集企画グループにより、新しいトピックを探し特集の候補とする活動が軌道に乗り出した。その第一段として産学連携論文・社会人博士論文特集が提案されている。

また、研究活動は、ユビキタスコンピューティング研究会を新設し、33 研究会により活発な活動を展開した。

1.3 国際化の推進

国際会議については、学会主催の SAINT（SAINT 2004：2004 年 1 月 26 日～30 日、東京、参加者約 330 名）をはじめとして、研究会主催の国際会議も盛況である。

今後、学会 Web サイトの英文化による国際的な情報発信体制の早期実現が必要である。

1.4 学会運営の効率化

電子化によるものでは、会員管理システム（マネジメントシステム）について、ようやく基本的な動作が見えてきた段階といえる。また、セキュリティについてもこの1年間で一応の構築がされている。

事務局固定費の削減については、賃借料が軽減される御茶ノ水の新事務所に平成16年3月1日から移転するとともに、人件費抑制のための諸規定の改定を行った。

2. 運営改善に関する検討状況

2.1 企画・政策委員会

情報処理に関する日本と世界の将来を見据え、本会の財政や会員数の推移状況等を踏まえつつ、本会の今後の在り方を示し、理事会が可能な限り速やかに実効ある施策に取り組めるよう、8回の委員会開催と電子メールにより検討を行い、検討結果を報告書に取り纏め16年3月理事会に提言した。（委員長：安西祐一郎、副委員長：松田晃一、ほか委員10名）。

報告書の主な概要は次の通りである（詳細は学会Webサイトに後日掲載予定）。

- (1) 実務の焦点（Focus for Practice）と学術の焦点（Focus for Academia）の二つの中心を持つ「楕円構造（Oval Structure）」の運営の必要性
- (2) 実務家に向けた活動の活性化のための具体的な施策としての「技術応用フォーラム」の創設
- (3) 新規分野ならびに人材を獲得するための具体的な施策
- (4) 英文論文誌の発行ならびに英文ホームページの推進のための具体的な施策

2.2 総務・財務運営委員会

総務財務に関する諸施策の提案実施により運営の改善向上を図るべく、年度内に9回の委員会開催と電子メールにより検討を行った。（委員長：松田晃一、ほか委員4名）。

今年度の主な検討事項は次の通りである。

- (1) 中長期的な財務予想への対応、(2) 事務局固定費削減のための事務所移転ならびに人件費に関する諸規程の改定、(3) 主務官庁の実地検査報告に関する改善対応、(4) 個人情報保護法の制定に伴う対応（プライバシーポリシーの改訂）

3. 会員の異動

平成 16 年 3 月 31 日（平成 15 年度末）現在の会員状況は、次の通りである。 (人)

	14 年度末	入 会	退 会	除 名	15 年度末
名誉会員	35	(正 名誉) 3	0		38
正 会 員	22,457	854 (学 正) 575	1,523 (正 名誉) 3	671	21,689
学生会員	1,805	1,011	272 (学 正) 575	11	1,958
準会員	45	11 (正 準) 0	4	5	47
個人会員合計	24,342	2,454	2,377	687	23,732
賛助会員 (上段:社数 下段:口数)	352 468	12 22	33 39		331 451

* 入会には復会，再入会を含み，退会には死亡退会を含む。正会員には終身会員を含む。

4. 機関誌編集活動

4.1 会誌「情報処理」(月刊)

平成 15 年 4 月以降，8 月を除く毎月 1 回編集委員会を開催し，会誌「情報処理」第 44 巻 4 号から第 45 巻 3 号まで計 12 号（本文 1,334 ページ，広告 122 ページ，平均発行部数 23,724 部 / 号）を編集発行した。

本年度も和田編集長のもと，記事の構成およびレイアウトを工夫し，役立つ会誌，読みやすい会誌の編集を心がけた。本年度から新たに始まったシリーズに「とっきよ Now!」「情報技術と教育」「スマートタグ」があり，いずれも好評を博した。

特集号のテーマは次の通りである。

巻・号	特集テーマ	編集幹事
44. 4	ソフトウェア管理技術の最新動向を探る	松本健一・土居公司
5	電子政府	大山永昭・相原健郎
6	グリッド・コンピューティング	関口智嗣・水田秀行
7	Web ダイナミクス? 膨大で動的な Web 情報の知的処理に向けて?	村田剛志・山田誠二
8	エンタテインメントコンピューティング	松原 仁・津田 宏
9	ゲーム情報学	松原 仁・津田 宏
10	自然言語処理の高度化による知的生産性の向上	辻井潤一・橋田浩一
11	知能ロボットの技術：人工知能からのアプローチ（前編）	天野真家・小暮 潔
12	知能ロボットの技術：人工知能からのアプローチ（後編）	小暮 潔・天野真家
45. 1	モデリングとツールを駆使したこれからのソフトウェア開発技法? モデル駆動開発手法を中心として?	水田秀行・三ツ井欽一
2	地球シミュレータ	田淵仁浩・村井 均
3	大規模分散ネットワーク環境における教育用計算機システム	榎田秀夫

7月より広告収入増加対策の一環として、Web サイトへのバナー広告掲載を開始した。

会誌のオンデマンド印刷サービス事業（BookPark）を引続き行い、今年度はPDFのダウンロードサービスも開始し、一層のサービス向上を図った。

会誌編集委員は次の通りである。

編集長 和田英一

理事 丸山 宏，田中穂積，ほか委員 10 名

専門委員会

基礎・理論分野 主査：鈴木英之進，ほか 20 名

ソフトウェア分野 主査：上野浩一郎，ほか 16 名

ハードウェア分野 主査：土肥実久，ほか 13 名

アプリケーション分野 主査：津田和彦，ほか 17 名

実務分野 主査：三宅英太，ほか 7 名

書評・ニュース分野 主査：松尾昭彦，ほか 18 名

コミュニケーション分野 主査：村瀬一郎，ほか 7 名

4.2 ジャーナル「情報処理学会論文誌」（月刊）

平成 15 年 4 月以降，毎月 1 回定例の編集委員会を開催し，「情報処理学会論文誌」第 44 巻 4 号から第 45 巻 3 号まで計 12 号（論文 299 編，テクニカルノート 24 編，本文 3,297 ページ，平均発行部数 5,560 部 / 号）を編集発行した。

(1) 「情報処理学会論文誌（ジャーナル）」の月刊体制の維持

一般論文，特集論文を含めた月刊体制を維持した。論文数は前年規模である。

(2) 編集企画体制の検討・強化

編集委員会幹事会の改組に伴い，特集号を含む編集企画体制の検討・強化を行った。この結果，特集企画 WG が生まれ，「産学連携論文特集」「社会人学生論文特集」など，研究会に閉じない特集企画が始まった。

(3) 発信方法の検討

論文査読管理システムの設計を進めた。この結果，事務局サポート機能は実装まで，編集委員・査読者・著者サポート機能は仕様の開発を終えた。全体の実装は 16 年度に完成する。

特集号のテーマは次の通りである。

巻・号	特集テーマ	編集幹事
44. 5	システム LSI の設計技術と設計自動化	藤田昌宏
6	オブジェクト指向技術	三ツ井欽一，中島震
8	新たな脅威に立ち向かうコンピュータセキュリティ技術	村山優子
11	インタラクション：理論，技術，応用，評価	大野健彦
12	ユビキタス環境のモバイル通信システムと ITS	小花貞夫
45. 1	ユビキタス時代のインターネット / 分散システムの構築・運用技術	松浦敏雄
	コラボレーションの『場』とコミュニティ	岡田謙一
2	ブロードバンドネットワークサービス	寺中勝美
3	音楽情報科学	片寄晴弘

論文誌編集委員は次の通りである。

委員長 石田 亨

副委員長 植村俊亮

委員

理論グループ 主査：森田啓義，ほか 16 名

基盤技術グループ 主査：松本健一，ほか 42 名

応用グループ 主査：井上智雄，ほか 35 名

ネットワークグループ 主査：中村章人，ほか 23 名

特集企画グループ 主査：石田 亨，ほか 8 名

4.3 トランザクション（研究会論文誌）

研究会編集のトランザクションを年度内に次の通り発行した。

論文誌名	巻・号	発行年月	論文数	頁数	発行部数	編集委員長
プログラミング (PRO18)	Vol.44, No.SIG13	H15.10	9	122	430	村上昌己
	(PRO19) No.SIG15	H15.11	5	80	430	
	(PRO20) No.SIG16	H15.12	5	76	430	
データベース (TOD18)	Vol.44, No.SIG 8	H15. 6	12	136	630	石川 博 大山敬三 吉川正俊
	(TOD19) No.SIG12	H15. 9	13	156	700	
	(TOD20) No.SIG18	H15.12	4	66	900	
	(TOD21) Vol.45, No.SIG 4	H16. 3	6	84	900	
数理モデル化と応用 (TOM 8)	Vol.44, No.SIG 7	H15. 5	13	130	1,000	阿久津達也
	(TOM 9) No.SIG14	H15.11	10	108	1,000	
	(TOM10) Vol.45, No.SIG2	H16. 2	15	170	1,000	
コンピュータビジョンと イメージメディア (CVIM 6)	Vol.44, No.SIG 5	H15. 4	8	90	1,600	池内克史
	(CVIM 7) No.SIG 9	H15. 7	15	146	1,200	
	(CVIM 8) No.SIG17	H15.12	12	142	1,200	
コンピューティングシステム (ACS 1)	Vol.44, No.SIG 6	H15. 5	11	118	930	中島 浩
	(ACS 2) No.SIG10	H15. 7	16	190	930	
	(ACS 3) No.SIG11	H15. 8	27	304	930	
	(ACS 4) Vol.45, No.SIG 1	H16. 1	10	118	950	
	(ACS 5) No.SIG 3	H16. 3	12	138	940	

5 . 出版活動

5.1 著作権委員会

- (1) 著作権に関する関連学会との協定は，協定直前で脱退する学会が出たことなどから，締結には至らなかった。
- (2) 民事訴訟法での「専門委員」制度新設に伴い，最高裁判所から情報処理分野についての「専門委員」推薦依頼が届き，全 13 名を推薦した。

(3) 9月10日付け法制審議会答申「ハイテク犯罪に対処するための刑事法の整備に関する要綱（骨子）」に関する意見書を法制審議会へ提出した。

- (4) 委員長 丸山 宏
副委員長 田中穂積
委員 石田 亨，ほか5名

5.2 出版委員会

出版委員会としての活動は特になかった。

- 委員長 丸山 宏
副委員長 田中穂積

5.3 英文図書出版委員会

新しくオーム社と契約を結び，新シリーズとして“Advanced Information Technology”の編集を進めた。“Gigabit Network”の1巻を発行した。

- 委員長 齊藤忠夫
幹事 近山 隆
委員 伊藤 潔，ほか10名

5.4 教科書編集委員会

“IT Text”シリーズの編集を進め，第17巻「コンピュータグラフィックス」まで発行した。

また，一般情報処理教育小委員会と連携し，大学教養課程を対象とした一般情報教育用教科書をIT Textシリーズの一環として発行することを決定した。

- 委員長 松下 温
幹事 阪田史郎
委員 伊藤 潔 ほか7名

5.5 歴史特別委員会

(1) 平成15年5月に「コンピュータ博物館」のリニューアルを行った。また，平成16年度リニューアルに向けて対象機器の拡大，英文化等を含めた作業を開始し，これに関連して科研費の申請を行った。さらに，日本のコンピュータパイオニアの英文化を執筆者等に依頼し，編集作業を進めた。

(2) 電気学会電気技術史特別委員会より卓越技術に関するデータベース化作業の委託を受け，選出作業を行った。

(3) 43巻10号から45巻1号まで計17編の記事を会誌「日本の情報処理技術の足跡」に連載した。

(4) オーラルヒストリーの掲載に向けて活動を開始した。

- (5) 委員長 高橋 茂
幹事 松永俊雄
委員 旭 寛治 ほか7名

6 . 事業活動

6.1 全国大会

第66回全国大会（プログラム委員長：徳田英幸）を慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスで開催した。

今大会では，前回の大会に引き続いてホットな話題をテーマに特別トラック5本，および学生セッションを通常の一般セッションと併せて行った。学生セッションでは，高橋延匡先生追悼集刊行会より副賞の寄贈をいただいた。講演件数では，前回は若干上回る1,069件（一般セッション396件，学生セッション

595件、特別トラック57件、デモセッション21件)の申込みを得ることができた。

プログラム内容では、Prof. Carl K. Chang (IEEE-CS 会長)、Prof. Yong-Jin Park (KISS 会長)を招いて招待講演が行われ海外学会との国際交流促進を図ることができた。また、村上輝康氏(野村総研)、金出武雄氏(カーネギーメロン大)を招いて招待講演も行われた。

各特別トラックでも趣向をこらした基調講演、パネル討論が行われ、さらには特別セッション、パネル討論、JABEE シンポジウム、標準化セッションなど非常にバラエティにとんだ内容となった。

総参加者数も首都圏大会で3大会連続2,000名を突破した。

第66回全国大会(平成16年)	
期 日	平成16年3月9日(火)~11日(木)
会 場	慶應義塾大学 湘南藤沢キャンパス
発表論文	1,066件
参 加 者	2,427名,うち非会員 549名
大会スローガン	快適・安心な社会が実現できるか? -生活を支える情報技術-
招待講演	<ul style="list-style-type: none"> ・ Evolving the World of Computing with New Curricula and Professional Certification Carl K. Chang (IEEE-CS 会長) ・ Regional Academic Networking in Asia-Pacific Yong-Jin Park (KISS 会長) ・ 人とロボット:過去,現在,未来 金出武雄(カーネギーメロン大) ・ ユビキタスネットワーク社会の企業戦略 村上輝康(野村総研)
特別トラック	(1) ユビキタス社会とセキュリティ (2) ロボット技術の現状と展望 (3) グリッドコンピューティングと並列化技術 (4) 次世代情報家電 (5) 次世代テレマティクスとモバイルサービス
特別セッション	(1) エンターテインメントコンピューティング (2) 高度なソフトウェア技術者の育成
その他企画	シンポジウム: JABEE 情報および情報関連分野の受審を目指した体制作り パネル討論: 生涯教育と資格 標準化セッション(1): ISO/IEC/JTC1/SC6における標準化トピックス 標準化セッション(2): ISO/IEC/JTC1/SC28における標準化トピックス

6.2 FIT2003 第2回情報科学技術フォーラム

平成15年9月10日(水)~12日(金)に札幌学院大学において第2回のFIT2003を開催した。今回の申込件数は1,144件と前回の899件から大幅に増加した。査読付き論文の件数も今回は448件と前回の371件を2割ほど上回り、うち155件の論文(採録率約1/3)が採録となり、採録となった論文のみを集めた情報技術レターズ(Information Technology Letters)に掲載された。イベント企画では、地方開催ということで地元色をもたせ、高橋はるみ北海道知事の招待講演が行われた。また、海外から人工知能の権威であるMarvin Minsky博士を招いて招待講演とパネル討論を行った。さらに今回のFITではイベント企画を、(1)研究会提案型、(2)現地提案型、(3)本委員会提案型という3つの柱で構成しそれぞれ趣向をこらしたイベントが開催された。

また、船井情報科学振興財団から、船井業績賞が Marvin Minsky 博士に、船井ベストペーパー賞が査読付き論文の中から 3 件の優秀な論文に対してが贈呈された。

講演者、総参加者数ともに前回は上回り FIT の認知度が高まってきたことがうかがえる。

FIT2003 第 2 回 情報科学技術フォーラム	
期 日	平成 15 年 9 月 10 日（水）～ 12 日（金）
会 場	札幌学院大学
委 員	推進委員長：安西祐一郎（IPSJ，慶應義塾），白井良明（ISS，阪大） 実行委員長：白鳥則郎（IPSJ，東北大） プログラム委員長：青木由直（ISS，北大）
発表論文	1,099 件
参 加 者	1,969 名，うち非会員 334 名
イベント企画	<ul style="list-style-type: none"> ・特別講演（1）IT を核に新たな産業振興を 高橋はるみ（北海道知事） ・特別講演（2）Future Computers and Common Sense Marvin Minsky（MIT） ・研究会提案型：車載情報システムにおける音声インタフェース ・研究会提案型：パターン認識・メディア理解アルゴリズムコンテスト ・研究会提案型：雑音下音声認識に関する共通コーパスと評価 ・研究会提案型：言語情報アクセス基盤技術としての機械学習 ・研究会提案型：こんなものが欲しい，福祉情報システム ・研究会提案型：実践ビジネスモデリング-最新メソッドと事例紹介を中心に- ・委員会提案型：人工知能と技術革新 - ミンスキー博士を囲んで - ・委員会提案型：e-シルクロードでアジア IT 産業先進地を結ぶ ・委員会提案型：FIT 賢人会議 - 情報関連学会 21 世紀はどうするんだい - ・現地提案型：札幌 IT カロツェリア ・船井ベストペーパー賞選考会
船井業績賞 船井ベストペーパー賞	船井業績賞 Marvin Minsky（MIT） 船井ベストペーパー賞 <ul style="list-style-type: none"> ・多目的分散 GA をベースとしたパフォーマンスドリブン配置手法 吉川雅弥・寺井秀一（立命館大） ・汎用 XML 文書符号化方式「XEUS」の性能評価 小林亜令・松本一則・井ノ上直己（KDDI 研） ・モーションデータによる目的関数推定法を用いた仮想人間の動作生成 向井智彦・栗山 繁・金子豊久（豊橋技科大）

6.3 連続セミナー

平成 15 年度は、「ユビキタス社会の実現に向けて- インフラからサービスまで-」を統一テーマとして、年度中に以下の通りセミナーを 6 回実施した（場所：工学院大学，参加者：166 名）。

今回は、各回の開催日とプログラムがなかなか決まらず参加募集期間が十分に取れたとは言えない。各回のテーマとコーディネータは講習会等業務委員会がアレンジをして、その後の各回のプログラムについてはコーディネータへ一任という形で進めてきたが、今後は講習会等業務委員会の親委員会である事業推進委員会で各回プログラムの確定にあたってバックアップをしていき、なるべく早く全回のプログラムを完成させ参加募集をかけられるようにする。

日 程	テーマ	コーディネータ
第1回 平成15年6月23日(月)	ユビキタス時代のソフトウェア開発技術	青山幹雄(南山大)
第2回 平成15年8月8日(金)	Webデザインとヒューマンインタフェース	土井美和子(東芝)
第3回 平成15年9月26日(金)	コンテンツとサービス	小野定康(慶大)
第4回 平成15年10月7日(火)	ユビキタス空間ネットワーク	青山友紀(東大)
第5回 平成15年11月26日(水)	セキュアネット	勝山光太郎(三菱)
第6回 平成15年12月15日(月)	グリッドコンピューティング	松岡 聡(東工大)

6.4 産業フォーラム

産業フォーラムは、主として産業界への本会活動の周知による入会促進を目的に平成11年度からスタートした企画だが、当初の目的が達成できていないという現状を、事業推進委員会より各フォーラムのコーディネータへ連絡し、合意のもと本フォーラムの開催は平成15年度途中をもって中止することになった。今年度は、以下のフォーラムが1回開催された。

テーマ	日程	参加者	コーディネータ
ITS(第8回)	平成15年4月18日(金)	参加者52名	小花貞夫(KDDI)

6.5 プログラミング・シンポジウム

プログラミング・シンポジウム委員会(委員長:和田英一)において次のシンポジウムを開催した。

(1) 第45回プログラミング・シンポジウム

平成16年1月7日(水)~9日(金), ウェルシティ湯河原(静岡県), 参加者122名

(2) 夏のプログラミング・シンポジウム

平成15年8月20日(水)~8月22日(金), 三谷温泉 平野屋(愛知県), 参加者45名

(3) 情報科学若手の会

平成15年8月29日(金)~8月31日(日), 湯沢ビューホテルいせん(新潟県), 参加者24名

6.6 協賛・後援等の活動

設計支援システムによるノウハウの活用~商品価値を高める情報技術と管理ツール~(精密工学会主催, 平成15年7月4日(金), 中央大学), ほか111件。

7. 調査研究活動

7.1 調査研究運営委員会

学会活動の核でもある調査研究活動を活性化するため、研究会活動の一環として研究会による論文誌(トランザクション)の編集を行った(内容は機関誌編集活動の項に掲載)。

また、ジャーナルとトランザクションのあり方について、論文誌(ジャーナル)編集委員会と連携しつつ議論を行い、論文誌(ジャーナル)編集委員会内に設置される特集企画グループへ委員を推薦した。

一方、領域および研究会の運営方法、シンポジウムのサービス選択制度の見直し等、特に多様化してゆく研究会活動とその収支方法、情報発信の方法などについて、さらに新規分野の開拓等、英文誌発行についても議論を行った。また、学会活動における関連事業、特に領域委員会を通じて全国大会への協力を行い、FITへの協力体制についても見直しのための議論を行った。

委員は次のとおりである。

委員長	萩谷昌己				
理事	喜連川優	都倉信樹			
委員	鯉坂恒雄	石畑 清	今井 浩	尾家祐二	竹林洋一
	富田悦次	中島 浩	橋田浩一	平田圭二	

7.2 領域委員会(3)

各領域委員会ごとに委員会を開催し、領域および研究会の運営方法の充実を図るとともに、関連する学会活動と連携しつつ当該領域ならびに関連分野に関する研究会活動の活性化を図った。特に研究会活動の多様化と適切な収支方法、情報発信の方法や英文誌発行に関する議論を行った。

また、全国大会やFITへはプログラム委員等を選出するなど協力を行った。

- | | | |
|----------------------------|-----|------|
| 1) コンピュータサイエンス領域委員会(年3回開催) | 委員長 | 富田悦次 |
| 2) 情報環境領域委員会(年3回開催) | 委員長 | 竹林洋一 |
| 3) フロンティア領域委員会(年3回開催) | 委員長 | 平田圭二 |

7.3 研究会(33)

研究会名	英文略称	主査(運営委員数)	登録者数	発表回数(件)
< コンピュータサイエンス領域 >				
データベースシステム	DBS	石川 博 (33)	546	3(134)
ソフトウェア工学	SE	青山幹雄 (43)	559	4(51)
計算機アーキテクチャ	ARC	笠原博徳 (37)	385	5(95)
システムソフトウェアとオペレーティング・システム	OS	加藤和彦 (33)	343	3(48)
システムLSI設計技術	SLDM	寺井秀一 (37)	351	5(126)
ハイパフォーマンスコンピューティング	HPC	関口智嗣 (35)	425	4(92)
プログラミング	PRO	村上昌己 (31)	409	5(52)
アルゴリズム	AL	徳山 豪 (31)	312	5(69)
数理モデル化と問題解決	MPS	城 和貴 (35)	341	5(66)
< 情報環境領域 >				
マルチメディア通信と分散処理	DPS	東野輝夫 (48)	487	5(114)
ヒューマンインタフェース	HI	増井俊之 (46)	544	5(48)
グラフィクスとCAD	CG	斎藤隆文 (25)	390	4(53)
情報システムと社会環境	IS	神沼靖子 (22)	308	4(34)
情報学基礎	FI	仲尾由雄 (24)	282	4(64)
オーディオビジュアル複合情報処理	AVM	渡辺 裕 (19)	217	4(64)
グループウェアとネットワークサービス	GN	星 徹 (41)	356	4(77)
分散システム/インターネット運用技術	DSM	松浦敏雄 (33)	377	4(53)
デジタル・ドキュメント	DD	大野邦夫 (17)	252	5(38)
* モバイルコンピューティングとユビキタス通信	MBL	高橋 修 (43)	445	4(73)
コンピュータセキュリティ	CSEC	岡本栄司 (39)	414	4(109)
高度交通システム	ITS	松下 温 (26)	265	4(59)
高品質インターネット	QAI	砂原秀樹 (19)	155	4(46)

システム評価	EVA	福田 晃 (18)	146	3(27)
**ユビキタスコンピューティングシステム	UBI	徳田英幸 (33)	214	3(69)
<フロンティア領域>				
自然言語処理	NL	島津 明 (29)	556	6(116)
知能と複雑系	ICS	沼尾正行 (26)	449	3(77)
コンピュータビジョンとイメージメディア	CVIM	横矢直和 (52)	573	6(124)
コンピュータと教育	CE	川合 慧 (34)	538	5(50)
人文科学とコンピュータ	CH	桶谷猪久夫 (23)	314	4(36)
音楽情報科学	MUS	片寄晴弘 (23)	367	5(75)
音声言語情報処理	SLP	小林哲則 (28)	318	5(108)
電子化知的財産と社会基盤	EIP	安田 浩 (17)	231	4(57)
ゲーム情報学	GI	松原 仁 (21)	255	2(27)
合 計		(961)	12,124	140(2,331)

*名称変更 **新設

7.4 研究グループ(1)

研究グループ名	英略称	主 査	発表会回数(論文数)	記 事
<情報環境領域>				
放送コンピューティング	BCC	水野忠則	3(39)	*合同2回

7.5 シンポジウム等(23回)

題 名	研究会名略称	開催期日/場所	参加者	演題数
先進的計算基盤システムシンポジウム SACSIS 2003	ARC,OS,AL,P RO,HPC	H15. 5. 28(水)~30(金) 学術総合センター	279名	74件
マルチメディア,分散,協調とモバイル (DICOMO 2003)シンポジウム	DPS,GN,DSM, MBL,CSEC,ITS QAI,UBI	H15. 6. 4(水)~6(金) ニュー阿寒ホテルシャングリラ	346名	209件
電子政府に向けての社会基盤シンポジウム	EIP	H15. 6. 21(土) 東京大学	63名	11件
第8回ヒューマンインタフェース プロフェッショナルワークショップ	HI	H15. 7. 10(木)~11(金) ソフトピア	35名	?件
DAシンポジウム2003	SLDM	H15. 7. 22(火)~24(木) 遠鉄エンパイヤホテル(浜松)	141名	51件
オブジェクト指向2003シンポジウム	SE	H15. 8. 20(水)~22(金) 早稲田大学	200名	56件
情報教育シンポジウム	CE	H15. 8. 22(金)~24(日) スズキ荘観月園	114名	36件
組込みソフトウェアシンポジウム2003	SE	H15. 10. 16(木)~17(金) 機械振興会館	183名	28件
MPSシンポジウム	MPS	H15. 10. 23(木)~24(金) 同志社大学	46名	41件
コンピュータセキュリティ シンポジウム2003	CSEC	H15. 10. 29(火)~31(金) 北九州国際会議場	272名	116件

第8回ゲームプログラミングワークショップ	GI	H15.11.7(金)~9(日) 箱根セミナーハウス	53名	29件
International Symposium on Ubiquitous Computing Systems	UBI	H15.11.17(月) 京都リサーチパーク	139名	6件
デジタルドキュメントシンポジウム2003	DD	H15.11.25(火) 国立情報学研究所	36名	9件
データベースとWeb情報システムに関するシンポジウム(DBWeb2003)	DBS	H15.11.26(水)~27(木) 日本科学未来館	150名	43件
マルチメディア通信と分散処理ワークショップ	DPS	H15.12.10(水)~12(金) 阿蘇プラザホテル	79名	51件
コンピュータシステム・シンポジウム	OS	H15.12.11(木)~12(金) つくば国際会議場	91名	18件
人文科学とコンピュータシンポジウム2003	CH	H15.12.17(水)~18(木) 国立歴史民俗博物館	74名	51件
2004年ハイパフォーマンスコンピューティングと計算科学シンポジウム(HPCS2004)	HPC	H16.1.15(木)~16(金) 日本科学未来館	84名	29件
2004年情報学シンポジウム	FI	H16.1.15(木)~16(金) 日本学術会議講堂	61名	26件
高度交通システム2004シンポジウム	ITS	H15.1.16(金) 三菱電機ビル	64名	6件
分散システム/インターネット運用技術シンポジウム2004	DSM	H16.1.22(木)~23(金) 麗澤大学	63名	18件
ウインターワークショップ・イン・石垣島	SE	H16.1.29(木)~30(金) 石垣島全日空ホテル	34名	37件
インタラクシオン2004	HI, GN	H16.3.4(木)~5(金) 学術総合センター	457名	95件

7.6 小規模国際会議(3回)

会議名	開催期間	参加者	開催地
日韓アルゴリズムと計算理論国際会議(WAAC2003)	H15.7.3(木)~4(金)	52名	仙台市情報産業プラザ
モバイルコンピューティングとユビキタスネットワーク国際会議(ICMU2004)	H16.1.8(木)~9(金)	56名	NTTドコモ
高度応用のためのデータベースシステムに関する国際会議	H16.3.17(水)~18(木)		Seogwipo KAL Hotel

8. 教育活動

8.1 情報処理教育委員会

情報処理教育委員会(委員長: 筧 捷彦)は、年度初めに会合を開き活動計画等について検討を行ったが、その後は主に電子メールを用いて活動を展開した。アクレディテーションについては次項で述べるが、その他に、初等中等教育小委員会(委員長: 武井恵雄)は、「コンピュータと教育研究会」と協力して8月にシンポジウムを開催し、特に高校における情報教育に関する議論を行った。コンピュータサイエンス教育小委員会(委員長: 疋田輝雄)は、情報分野の最低水準の専門基礎知識項目の洗い出し作業にあたった。情報システム教育小委員会(委員長: 神沼靖子)は、ISでの達成レベル表示の検討作業にあたった。

8.2 アクレディテーション

アクレディテーション委員会（委員長：牛島和夫）は、日本技術者教育認定機構（JABEE）の情報分野の検討組織として、これまでに行った認定試行を踏まえ、認定基準の検討や認定実施上の問題点の検討を行い、平成 15 年 10 月には 4 プログラムの認定審査を各審査団を設けて行った。また、平成 16 年 3 月の全国大会のシンポジウムでは JABEE の審査を受ける立場でどのような体制作りが必要かを中心に報告を行い討論を行った。さらに、平成 15 年 8 月および平成 16 年 3 月には認定審査の審査員養成および受審査のための研修会を行った。その他にソフトウェアエンジニアリング分科会は（委員長：松本吉弘）は、IEEE とも協力して SE の標準カリキュラム作成作業にあたった。

また、大学基準協会が策定した「情報学系教育に関する基準（案）」に対して、同協会に意見書を提出した。

8.3 生涯教育

生涯教育委員会（委員長：石田喬也）は年度内に委員会を 4 回開催し、企業環境面で十分な技術教育を受けてこなかった技術者を主な対象者とする教育について議論した。

8.4 資格制度

資格制度委員会（委員長：大岩 元）を発足し、技術士部会、高度 IT 技術者（仮称）部会を設けて、資格制度に関する検討を行うこととした。

8.5 JST 委託事業

独立行政法人科学技術振興機構（JST）からの委託により、同機構の運営する Web ラーニングプラザの「情報ネットワーク」コースの教材の制作を行った。

9 . 国際活動

9.1 国際業務委員会

平成 15 年度中に 2 回開催し、主催・共催会議の開催申請、終了報告等について審議を行った。

委員長 山本 彰
幹 事 下條 真司
委 員 増永良文（ACM 担当）、山田昭彦（IEEE-CS 担当）
三上喜貴（SEARCC 日本代表）、大岩 元、発田 弘、占部浩一郎（SEARCC WG）

9.2 IFIP 委員会

平成 15 年度中に 1 回開催し、IFIP 各 TC 日本代表より年間活動報告と堀越 IFIP 日本代表より IFIP-GA2003 の報告を行った。

委員長 堀越 彌（IFIP 日本代表） 狩野公太郎（日本代表補佐）
幹 事 山本 彰、下條 真司（国際担当理事）
委 員 伊藤貴康（TC1） 笈 捷彦（TC2） 大岩 元（TC3）
木村文彦（TC5） 齊藤忠夫（TC6） 亀田寿夫（TC7）
内木哲也（TC8） 松本恒雄（TC9） 南谷 崇（TC10）
佐々木良一（TC11） 堂下修司（TC12） 黒須正明（TC13）
中津良平（SG） 田島譲二（IAPR） 発田 弘（JEITA）

9.3 International Federation for Information Processing（IFIP）活動

(1) 昨年 IFIP の Specialist Group（SG）として設立が承認された Entertainment Computing は、中津

良平 SG-chair のもと活発な活動が継続しており，将来は IFIP の TC になることが期待されている。

(2) 伊藤貴康 TC1 日本代表が，2003 年 1 月 1 日付けで TC1-chair に就任した。

9.4 South East Asia Regional Computer Confederation (SEARCC) 関係

12 月にスリランカで開催された SEARCC 理事会に，三上 SEARCC 日本代表が出席した。

9.5 その他の国際活動

平成 16 年 3 月の第 66 回全国大会において IEEE-CS 会長の Prof. Carl K. Chang，および KISS 会長の Prof. Yong-Jin Park を招聘し，招待講演ならびに IEEE-CS, KISS, IPSJ でミーティングを行った。

9.6 国際会議の開催

(1) The 2004 Symposium on Applications and the Internet (SAINT2004) (共催)

開催日：平成 16 年 1 月 26 日(月)～30 日(金) 開催地：東京ファッションタウン

委員長：尾家祐二(九工大) 参加者：328 名，うち海外 15 カ国 58 名

(2) International Symposium on Autonomous Decentralized System (ISADS2003) (共催)

開催日：平成 15 年 4 月 9 日(水)～11 日(金) 開催地：イタリア ピサ

委員長：森 欣司(東工大) 参加者：120 名，うち海外 13 カ国 120 名

(3) アジア南太平洋設計自動化会議 2004 (APS-DAC2004) (共催) 研究会運営主体

開催日：平成 16 年 1 月 27 日(火)～30 日(金) 開催地：パシフィコ横浜

委員長：安浦寛人(九大) 参加者：515 名

(4) The 24th International Conference on Distributed Computing Systems (ICDCS2004) (共催)

研究会運営主体

開催日：平成 16 年 3 月 23 日(火)～26 日(金) 開催地：東京工科大

委員長：松下 温(東京工科大) 参加者：356 名

9.7 協賛・後援等の活動

第 35 回「ストカスティックシステム国際シンポジウム (SSS'03) (会期：平成 15 年 10 月 30 日(木)～31 日(金))，会場：国際ホテル宇部，協賛依頼者：システム制御情報学会)ほか 21 件。

10. 規格調査活動

10.1 国際活動の状況

10.1.1 JTC 1 全体の活動

(1) JTC 1 の今後

1) JTC1 ビジネスプラン

2003 年 11 月に開催された JTC 1 シンガポール総会で今後 1 年間のビジネスプランを決定した。フォーカスは市場適合性と進行中の標準開発プロジェクトについては提供予定を守ることである。

2) JTC1 長期ビジネスプラン (LTBP, LTMP Imp)

2002 年 10 月の JTC 1 ソフィア・アンティポリス総会で承認した長期ビジネスプランとその実現プランは有効であることがシンガポール総会でも確認され，プランに沿って活動を続けることとなった。

3) JTC 1 Technology Watch と新規 Study Group の設置

ア．JTC 1 Technology Watch

ソフィア・アンティポリス総会で設置された特別ワーキンググループ (JTC 1 SWG for Technology Watch) の継続とカナダの Coallier 氏の議長継続を確認した。

イ．Web Services スタディ・グループの設置

シンガポール総会で Web Services の標準化に関する JTC 1 の貢献戦略を検討するためのスタディ・グループの設置（議長 D. Deutsch(米: Oracle), セクレタリ F. Coallier(加)）を決定した。

ウ．Privacy Technology スタディ・グループの設置

シンガポール総会で Privacy Technology(プライバシポリシー, プロセス, システム)の標準化に関する JTC 1 の貢献戦略を検討するためのスタディ・グループの設置（議長 J.Hopkinson(加)）を決定した。6月にモントリオールで第1回の会議が開催され, 次回の JTC 1 総会(2004年10月)で活動結果が報告される。

(2) SC11のSC23への統合

昨年末にSC11(磁気記録関係を担当)の事務局と議長を担当していた米国がそれらの担当を終了したいとの意向を表明したが, SC23のスコープを拡大して磁気記録も含むようにし, 事実上日本がSC11の事務局と議長を担当することにした。

(3) Linux Study Group

2002年のJTC 1総会で, Linux規格のIS化の検討を目的に設立, 先ずはFree Standards GroupのLinux Standards Base規格をPAS方式でIS化する方針を決めた。

(4) JTC 1 Directives 第5版の発行

1998年に第4版が発行されてから5年以上経過してやっと第5版(J1N7364)が2004年2月初めに公開された。この5年間の間に個別に議論され採用されていた改訂内容が完全に盛り込まれた。

(5) 国際規格の出版状況

2003年の国際規格の出版数は, IS 123件, ISP 0件, TR 10件で合計133件(2002年: IS 139件, ISP 0件, TR 10件で合計149件)で, 昨年に比べ16件(11%)減少したが, 内訳をみると前年比でSC6が10件, SC32が21件増加したが, 一方で, 解散したSCが開発したISが16件, SC7が9件, SC25が10件減少し合計では昨年度を下回った。2003年に国際規格案となったものがFDIS(DISを含む)84件, DISP 0件, DTR 13件で合計97件あり(2002年FDIS(DISを含む)94件, DISP 0件, DTR 12で合計107件)昨年とほぼ同じ水準を維持した。特にSC29のFDISが昨年度に比べ12件増加したのが際立っている。

10.1.2 情報規格調査会の国際活動

(1) 日本提案による国際標準化の推進

1) 日本が2003年度提案した新業務作業項目(NP)

ア．商品トレーサビリティ番号 (SC31)

イ．マイクロQRコード (SC31)

ウ．Home Network Lower Layer Protocol (SC25)

エ．ISO/IEC 7816-13 Identification cards - Integrated circuit cards - Part 13: Commands for application management in a multi-application environment (SC17)

2) 日本が2003年度提案したFast-track DIS

ア．データプロジェクタ(SC28)

3) 日本が2003年度以前にNP提案した新業務作業項目の進捗状況

ア．XML

DTR 19758 Document Description and Processing Languages -- DSSL library for complex compositions

(状況) 2003-04-01付で出版された。

DTR 22250-2 Document Description and Processing languages -- Regular Language Description for XML (RELAX) -- Part 2: RELAX Namespace

(状況) 2002-05-08期限のDTR投票で承認され, 形式的には出版待ちの状態であるが実質的には, TR 22250-2は, ISO/IEC 19757-4に含まれることになった。

イ．協調学習

CD 19778: Information technology for learning, education, and training -- Collaborative technology -- Collaborative workplace

(状況) 2003-09 のソウル会議で、FCD 投票を開始する合意がなされたが、その後 2004-09 のダブリン総会までに再度 CD 投票をすように変更された。

19779-1: Information technology for learning, education, and training -- Collaborative technology -- Agent/agent communication

(状況) プロジェクトエディタが不在の状況が続いていたが、2004-09 のダブリン総会までに決定する予定である。

CD 19780-1: Information technology for learning, education, and training -- Collaborative technology -- Learner to learner interaction scheme

(状況) 2004-03 のモントリオール会議で BRM を行い、2004-09 のダブリン総会までに次の CD を提出する予定である。

(2) 国際活動における日本の主要な役割

日本が担当する役職数は、欧州諸国に比肩する規模を維持している。(氏名の後の括弧内は 2003 年 3 月末の所属を表す。)

1) 議長, コンビーナ, ラポータなど

2003 年度末においては, SC 2, SC 23, SC 28, SC 29 の議長, SC 7/WG 6, SC 22/WG 16, SC 32/WG 4, SC 34/WG 2, SC 35/WG 2, SC 35/WG 4, SC 36/WG 2 のコンビーナ, SC 29/WG 1/JBIG, SC 31/WG 4/Application のラポータを日本が担当した。

2) プロジェクトエディタ

SC 6(6 名), SC 7(11 名), SC 11(9 名), SC 22(1 名), SC 23(9 名), SC 27(4 名), SC 29(34 名), SC 31(1 名), SC 32(5 名), SC 34(8 名), SC 35(3 名), SC 36(2 名) の計 93 名 (プロジェクト数 166) であった。

3) セクレタリアート

2003 年度末においては, SC 2(当調査会), SC 7/WG 6(当調査会, NEC), SC 23(当調査会), SC 28(JBMIA, キヤノン), SC 29(当調査会), SC 36/WG 2(当調査会, 日本ユニテック) の 6 つの国際事務局を担当した。

(3) 国際会議への参加状況

2003 年度は 238 回の会議が開催されたが、うち 209 回の会議に日本から 853 名が参加した(うち外国開催 205 回, 日本からの参加者 828 名)。なお、当調査会がホストとなり日本で開催したものは 4 回であった。

10.2 国内委員会の活動状況

(1) 委員会等の開催状況

事業執行に関しては、規格総会、規格役員会、運営委員会、広報委員会および表彰委員会を計 35 回開催した。技術活動のうち、JTC 1 全体に関する事項は、技術委員会、技術委員会 / 幹事会および DIS 等調整委員会で対応し、SC への対応は、専門委員会と関連する小委員会等が担当した。技術活動関係の委員会開催回数は、計 454 回であった。なお、2004 年 3 月末現在の技術委員会、技術委員会 / 幹事会、SWG、DIS 等調整委員会、ISO2375 登録委員会、専門委員会、小委員会、サブグループの数は、それぞれ 1, 1, 1, 1, 1, 22, 57, 8 であり、技術委員会以下の委員の総数は、重複を含めて 1,200 名、オブザーバは 194 名、メールメンバは 5 名であった。

(2) 各専門委員会の活動の概況

1) 第 1 種専門委員会関係

JTC 1 の組織変更等に対応して、下記の国内委員会の組織の変更を行った。

ア. SC6 専門委員会

作業課題の変更に対応して無線 LAN SG を WG1 小委員会に統合した。

イ. SC34 専門委員会

国際の WG3 の活動が活発になってきたのに対応して、国内も WG3 章委員会を設立した。

ウ．SC 37 専門委員会

作業項目の目処がついたのに伴い、2003-09 に開催された SC37 総会で、SG1 から SG6 を解散して WG1 から WG6 を設立した。これに呼応して国内も同様に組織変更を行った。

2) 第 2 種専門委員会関係：

ア．学会試行標準専門委員会

技術委員会で新たに 4 件の NP が承認され、また、5 件の学会試行標準が完成し、当調査会のホームページで公開することが承認された。

イ．文字情報データベース専門委員会（汎用電子情報交換環境整備プログラム）

今年度は、文字情報収集システムについて法務省から提供された約 56000 文字の整備体系化に対応できるような機能改善、文字情報公開システムについては昨年秋から予定されていた試験公開の開始が大きな目標で、これらの両方が円滑に遂行するため今年度は 4 回開催した。

ウ．メタモデル相互運用枠組み標準化専門委員会

経済産業省から受託した「メタモデル相互運用枠組み」に関する国際規格共同開発事業を円滑に遂行するため 2000 年 4 月に設立し、今年度は 10 回開催した。

エ．光ディスク用語専門委員会

光ディスクに関する用語を整理し、その結果を学会試行標準の「情報技術用語データベース」に反映するため、光ディスク用語専門委員会を設立した。

3) 第 3 種専門委員会関係：

次の 2 つの委員会を設けて活動した。

C#言語仕様 JIS 原案作成委員会（ISO/IEC 23270 JIS 原案作成）

プログラム言語 COBOL JIS 改正原案作成委員会（X 3002 の改正原案作成）

10.3 その他

(1) 学会の全国大会における標準化活動の紹介

学会会員が標準化活動について理解を深め、また標準化活動への参加を促進する目的で、2001 年 3 月の全国大会から標準化セッションを開催しているが、本年度は 2004 年 3 月に慶応大学湘南藤沢キャンパスで開催された全国大会で、SC6 専門委員会と SC28 専門委員会が具体的な標準化活動の紹介を行った。

(2) 情報規格調査会の表彰

ア．標準化功績賞：2 名

近藤 昭弘（日立）、齋藤 輝（日本 IBM）

イ．標準化貢献賞：12 名

青野雅樹（日本 IBM）、小林龍生（ジャストシステム）、櫻井幸一（九大）、菅谷寿鴻（東芝）、杉山秀紀（日本 IBM）、助田裕史（日立）、鈴木健司（東京国際大）、谷津行穂（日本 IBM）、中尾好秀（シャープ）、西村和夫（駒澤大）、宮地充子（北陸先端大）、室中健司（富士通）

11．支部活動

11.1 北海道支部（支部長：大内 東）

(1) 支部総会（平成 15 年 4 月 17 日（木）、於 北大、出席者 102 名（委任状 71 名を含む））

(2) 情報処理北海道シンポジウム 2003（平成 15 年 4 月 17 日（木）～18 日（金）於 北大、参加者 200 名）

(3) 電気関係学会北海道支部連合大会（平成 15 年 10 月 18（土）～19 日（日）、於 北海学園大、一般講演 300 件、参加者 436 名）

(4) 講演会（6 回）

(5) 幹事会（1 回）、評議員会（2 回）

(6) 支部奨励賞、道内高専成績優秀者表彰

11.2 東北支部（支部長：根元義章）

- (1) 支部総会（平成 15 年 5 月 7 日（水），於 東北大，出席者 156 名（委任状 138 名を含む））
- (2) 電気関係学会東北支部連合大会（平成 15 年 8 月 21 日（水）～ 22 日（金），於 岩手県立大，一般講演 393 件，参加者 698 名）
- (3) 講演会（6 回），研究会（3 回），東北大学大学等地域開放特別事業後援
- (4) 役員会（1 回），支部だより発行（3 回）
- (5) 支部奨励賞，学生奨励賞表彰

11.3 東海支部（支部長：杉本軍司）

- (1) 支部総会（平成 15 年 5 月 8 日（木），於 愛知厚生年金会館，出席者 343 名（委任状 317 名を含む））
- (2) 電気関係学会東海支部連合大会（平成 15 年 10 月 2 日（木）～ 3 日（金），於 名大，一般講演 715 件，参加者 1,346 名）
- (3) 講演会（7 回），研究会他（12 回），講習会（2 回）
- (4) 評議員会（3 回），幹事会（5 回）
- (5) 学生論文奨励賞表彰

11.4 北陸支部（支部長：都司達夫）

- (1) 支部総会（平成 15 年 5 月 16 日（金），於 福井大，出席者 107 名（委任状 88 名を含む））
- (2) 電気関係学会北陸支部連合大会（平成 15 年 9 月 21 日（日）～ 22 日（月），於 富山県立大学）
- (3) 講演会（10 回），見学会（1 回），学生研究発表会
- (4) 幹事会・評議員会（4 回）
- (5) 優秀学生表彰

11.5 関西支部（支部長：木戸出正継）

- (1) 支部総会（平成 15 年 5 月 16 日（金），於 新阪急ビル，出席者 500 名（委任状 464 名を含む））
- (2) 関西支部設立 40 周年記念事業
 - ・記念祝賀会（平成 15 年 10 月 31 日（金），於 大阪国際会議場，参加者 79 名）
 - ・小中学生のための情報処理科学教室（平成 15 年 11 月 22 日（土），於 奈良先端大，参加者 60 名）
- (3) 支部大会：3 研究会合同開催（平成 15 年 10 月 31 日（金），於 大阪国際会議場，参加者 155 名，論文発表 44 名）
- (4) 講演会（1 回），シンポジウム支援（2 回），環境知能研究会（3 回），ビジュアルインフォメーション研究会（4 回），VLSI 研究会研究会（3 回），セミナー（2 回）
- (5) 評議員会・幹事会合同会議（1 回），幹事会（5 回）
- (6) 学生奨励賞，特別奨励賞表彰

11.6 中国支部（支部長：渡邊敏正）

- (1) 支部総会（平成 15 年 5 月 9 日（金），於 中国電力，出席者 169 名（委任状 140 名を含む））
- (2) 電気・情報関連学会中国支部連合大会（平成 15 年 10 月 18 日（土），於 広島国際学院大）
- (3) 講演会（16 回），講習会（3 回），見学会（1 回），研究会・シンポジウム（2 回）
- (4) 評議員会（3 回），幹事会（3 回），ほか
- (5) 支部奨励賞，中国地区電気・情報関連学科優秀卒業生表彰

11.7 四国支部（支部長：村上研二）

- (1) 支部総会（平成15年5月9日（金），於 愛媛大，出席者77名（委任状61名を含む））
- (2) 電気関係学会四国支部連合大会（平成15年10月12日（日），於 愛媛大，参加者約600名）
- (3) 講演会・見学会等（8回）
- (4) 役員会（4回）
- (5) 支部奨励賞

11.8 九州支部（支部長：宇津宮孝一）

- (1) 支部総会（平成15年5月9日（金），於 佐賀大，出席者229名（委任状215名を含む））
- (2) 電気関係学会九州支部連合大会（平成15年9月26日（金）～27日（土），於 崇城大）
- (3) 火の国情報シンポジウム2004（平成16年3月5日（金）～7日（土），於 大分大）
- (4) 幹事会（3回），評議員会（1回）
- (5) 若手の会セミナー（1回），講演会等（1回）
- (6) 奨励賞表彰

12. 入会促進・広報活動

- (1) 各活動の協力を得て，下記の通り，入会促進ならびに広報活動に努めた。
 - ・研究発表会，シンポジウム，全国大会，FIT ほか共催・協賛・後援等の各種行事での入会促進
 - ・支部，関連学協会等開催行事での入会促進，活動広報
 - ・アカデミア・アドバイザリ各メンバー協力による入会促進ならびに活動広報
 - ・学生会員から正会員への継続者に対する全国大会・FIT 聴講引換券等の無料配布
 - ・情報関連企業への活動広報メール送付
 - ・IPJSJ メールニュースの充実による広報活動
- (2) 16年度に向けた新たな学生会員獲得のため，学生会員増強タスクフォースの設置，ならびに学生会員の研究会登録奨励のための支援を決定した。
- (3) 情報関連展示会会場において本会の活動を紹介した。
 - 「NETWORKORLD+INTEROP 2003TOKYO」 平成15年6月30日(月)～7月4日(金) 於 幕張メッセ
 - 「e-Learning WORLD 2003」 平成15年7月30日(水)～8月1日(金) 於 東京ビックサイト
 - 「CEATEC JAPAN 2003」 平成15年10月7日(火)～11日(土) 於 幕張メッセ
- (4) その他，Web購読，IPJSJ メールニュースなどの登録促進，ならびにホテル，レンタカー等会員優待サービスの拡充に努めた。

13. 電子化の推進

電子化委員会を開催し（委員長：宮部博史，副委員長：増井俊之，ほか委員7名），電子化の推進を図った。

- (1) マネジメントシステムの開発を推進し，運用を開始した。
- (2) 査読支援システムの一次開発を行った。
- (3) 英文ホームページの充実を図った。
- (4) コンテンツDBのアウトソーシング化を行った。
- (5) セキュリティコンサルタントに委託し，システムセキュリティの改善に努めた。

14. 会議の開催

14.1 第45回通常総会

平成15年5月20日(火)午後4時から2時間余にわたり、ホテル JAL シティ田町東京(東京都港区芝浦)において第45回通常総会を開催した。出席した代表会員および役員は137名であった(うち委任状による出席71名、定款第39条による総会成立定数81名)。定款第36条にもとづき鶴保会長を議長として、下記の議案を審議し異議なく承認した。

- 第1号議案 平成14年度事業報告について
- 第2号議案 平成14年度決算報告について
- 第3号議案 平成15年度事業計画について
- 第4号議案 平成15年度予算について
- 第5号議案 一般規則の改訂について
- 第6号議案 会費滞納会員の取扱いについて
- 第7号議案 名誉会員について
- 第8号議案 平成15年度役員改選について

上記第7号議案の名誉会員には、淵一博君、池田克夫君、牛島和夫君が推挙され、引続き平成14年度功績賞、論文賞、坂井記念特別賞、および業績賞をそれぞれの受賞者に贈呈した。また、坂井記念特別賞の完結に伴う感謝状を、資金の寄贈をいただいた坂井利之君に贈呈した。

総会終了後、坂井利之元会長の乾杯の音頭により懇親会を開き、会員一同の親交を深めた。

14.2 第46回臨時総会

平成15年12月24日(水)午後4時30分から15分余にわたり、情報処理学会会議室(東京都港区芝浦)において第46回臨時総会を開催した。出席した代表会員および役員は139名であった(うち委任状による出席112名、定款第39条による総会成立定数79名)。定款第36条にもとづき益田会長を議長に選出し、下記の議案を審議し異議なく承認した。

- 第1号議案 事務所移転に伴う定款の改訂(所在地の変更)について
- 第2号議案 事務所移転に伴う平成15年度予算の修正について

14.3 理事会

平成15年4月開催の第485回理事会以降、平成16年3月までに11回開催した。同年度内の役員は次の通りである(:平成15年5月新任)。

会 長	益田隆司				
副 会 長	安西祐一郎	松田晃一			
常務理事	中田登志之	上原三八	笥 捷彦	菊池純男	
理 事	石田 亨	喜連川優	都倉信樹	丸山 宏	宮部博史
	村上篤道	山本 彰	植村俊亮	佐々木良一	下條真司
	田中穂積	萩谷昌己	増井俊之	湯淺太一	
監 事	鈴木健二	吉澤康文			

14.4 支部長会議

平成15年7月25日(金)および平成16年1月22日(木)に開催し、各支部の活動報告、本部・支部間の意見交換を行った。

15. 表彰等（所属は選定当時）

15.1 功績賞ならびに顕功賞

功績賞委員会（委員長：松田晃一）において、平成 15 年度功績賞として下記 3 名を選定した。

鶴保証城（NTT ソフト） 棟上昭男（東京工科大） 当麻喜弘（東京電機大）

また、功績賞に準ずる特別賞である顕功賞に故上林彌彦氏を選定し、贈呈した。

15.2 フェロー

フェロー選定委員会（委員長：木村 泉）において、本会フェローとして新たに下記 9 名を選定し、平成 16 年 3 月の第 66 回全国大会において認証状を授与した。

石田喬也（三菱電機） 岡本栄司（筑波大） 神沼靖子（埼玉大）
喜連川優（東大） 鹿野清宏（奈良先端大） 富田悦次（電通大）
西関隆夫（東北大） 藤原秀雄（奈良先端大） 宮部博史（NTT）

15.3 論文賞

論文賞委員会（委員長：石田 亨）において、平成 15 年度論文賞として下記論文 10 編（23 名）を選定した。

- ・位相的特徴量に基づく平面ポリオミノ箱詰め問題の解法
村井保之（神奈川工科大），巽 久行（筑波技術短大），徳増眞司（神奈川工科大）
- ・SDI モデルに基づく局所同期型非同期式 VLSI 設計方式
今井 雅，Metehan Ozcan，南谷 崇（東大）
- ・OmniRPC: グリッド環境での並列プログラミングのための Grid RPC システム
佐藤三久，朴 泰祐，高橋大介（筑波大）
- ・PostgreSQL を用いた多機能な XML データベース環境の構築
油井 誠（NEC 情報システムズ），森嶋厚行（筑波大）
- ・部分ゲームの解析結果を用いたカルキュレーションの戦略
田中哲朗（東大）
- ・固有表現抽出のための SVM の高速化
磯崎秀樹，賀沢秀人（NTT）
- ・符号付き距離場の一致による複数距離画像からの形状モデル生成
増田 健（産総研）
- ・MPLS を用いた広域分散 I X の実現
中川郁夫（インテック・ネットコア），江崎浩（東大），
菊池 豊（高知工科大），永見健一（インテック・ネットコア）
- ・サイドチャネル攻撃へのウィンドウ法を用いた防御法に対する 2 階電力差分攻撃
桶屋勝幸（日立），櫻井幸一（九大）
- ・Threshold Ring Signature Scheme Based on the Curve
Hidenori Kuwakado, Hatsukazu Tanaka (Kobe Univ.)

15.4 業績賞

業績賞選定委員会（委員長：松田晃一）において、平成 15 年度業績賞として下記 3 件（14 名）を選定した（「 」内：貢献業績，*：貢献者代表）。

- ・「大規模並列ベクトル計算機・地球シミュレータの開発」
*佐藤哲也，北脇重宗（海洋科学技術センター），横川三津夫（産総研），
平野 哲（海洋科学技術センター），松本 寛（NEC）
- ・「第 3 世代移動通信網に適用するモバイルインターネットプロトコルの研究開発と標準化」
*高橋 修，稲村 浩，石川憲洋（NTT ドコモ），藤野信次，原 政博（富士通研）
- ・「カーナビゲーション向け超大語彙・耐騒音音声認識技術の実用化」
*岩崎知弘，成田知宏，花沢利行，中島邦男（三菱電機）

15.5 研究開発奨励賞

研究開発奨励賞選定委員会（委員長：松田晃一）において、平成 15 年度研究開発奨励賞として下記 3 名を選定した（「 」内：研究開発の対象）。

- ・原 隆浩（阪大） 「高度ネットワーク環境におけるデータベースシステム構築技術に関する研究」
- ・菊池浩明（東海大） 「プライバシー保護技術の研究開発」
- ・松原繁夫（NTT） 「電子商取引のためのメカニズム設計に関する研究」

15.6 山下記念研究賞

各領域委員会が選定委員会となり、平成 15 年度山下記念研究賞として下記 27 編（27 名）を選定し、当該研究会の研究発表会またはシンポジウムにおいて表彰した。

(1) コンピュータサイエンス領域

- ・アスペクト指向プログラミングへのモデル検査手法の適用（ソフトウェア工学研究会） 鵜林尚靖（東芝）
- ・アクセス制御ポリシーによる ClassofService の導入（ソフトウェア工学研究会） 登内敏夫（NEC）
- ・0/1 の局所性を利用したデータ値予測機構のハードウェア量削減（計算機アーキテクチャ研究会）
佐藤寿倫（九工大）
- ・分散メモリシステム上でのマクロデータフロー処理のためのデータ到達条件（計算機アーキテクチャ研究会）
本多弘樹（電通大）
- ・プッシュダウンシステムの拡張およびそのモデル検査法（プログラミング研究会）
新田直也（奈良先端大）
- ・遺伝的アルゴリズムのスキーマ定理による解析-突然変異と交叉の役割-（数理モデル化と問題解決研究会）
古谷博史（京大）
- ・枝重み最大クリーク抽出アルゴリズムと実験的評価（数理モデル化と問題解決研究会）
鈴木純一（電通大）

(2) 情報環境領域

- ・インターネットにおけるパケット到着間隔時間及び損失率の特性（マルチメディア通信と分散処理研究会）
串田高幸（日本 IBM）
- ・相互通信環境の動的構成を可能とするミドルウェアの設計（マルチメディア通信と分散処理研究会）
橋本浩二（岩手県立大）
- ・シワを考慮した顔の表情のシミュレーション（グラフィクスと CAD 研究会） 坂東洋介（東芝）
- ・3D ポリゴンモデルからの「折り紙建築」モデル生成手法（グラフィクスと CAD 研究会）
三谷 純（東大）
- ・携帯電話を用いた友人間の文字プレゼンス情報共有実験：情報環境構築指針に向けて
（グループウェアとネットワークサービス研究会） 渡辺 理（富士通研）
- ・メディア空間による分散勤務者のコミュニケーション支援システム「e-office」
（グループウェアとネットワークサービス研究会） 榊原 憲（キヤノン）
- ・H.323-SIP ゲートウェイシステムの研究開発（オーディオビジュアル複合情報処理研究会）
笠井裕之（NTT ドコモ）
- ・ウェアラブル環境のための LED を用いたビジュアルマーカの実現
（モバイルコンピューティングとユビキタス通信研究会） 岸野泰恵（阪大）
- ・対面無線アドホック通信に適した暗号通信路構築方法
（モバイルコンピューティングとユビキタス通信研究会） 下遠野享（日本 IBM）
- ・IP トレースバック逆探知パケット方式のトラフィック量と攻撃経路再構成時間の性能解析
（高品質インターネット研究会） 澤井裕子（日立）
- ・Web サイトのアーキテクチャの再考とそれに伴うサイジングについて（システム評価研究会）
長谷川泰章（NTT データ）

(3) フロンティア領域

- ・日本語固有表現抽出における冗長的な形態素解析の利用（自然言語処理研究会）
浅原正幸（奈良先端大）
- ・SVMに基づく固有表現抽出の高速化（自然言語処理研究会）
磯崎秀樹（NTT）
- ・時系列医療データにおけるルール発見支援システム - 慢性肝炎データセットでのケーススタディ -
（知能と複雑系研究会）
大崎美穂（静岡大）
- ・パターンハッシング - 部分画像と不変量索引を用いた分散アピランスモデル -
（コンピュータビジョンとイメージメディア研究会）
山口 修（東芝）
- ・平面パターンを用いた複数カメラシステムのキャリブレーション
（コンピュータビジョンとイメージメディア研究会）
植芝俊夫（産総研）
- ・教育目的に応じて観察の抽象度が変更可能な計算機シミュレータ ECAS の計算機構築演習での活用
（コンピュータと教育研究会）
矢原潤一（NEC）
- ・正倉院文書研究資料のXML/XSLTによる記述と統合（人文科学とコンピュータ研究会）
後藤 真（大阪市立大）
- ・パピプーン:GTTMに基づく音楽要約システム（音楽情報科学研究会）
平田圭二（NTT）
- ・局面の実現確率に基づくゲーム木探索アルリズム（ゲーム情報学研究会）
鶴岡慶雅（JST）

15.7 大会優秀賞・大会奨励賞

第65回全国大会（平成15年3月）優秀賞・奨励賞選定委員会（委員長：横井俊夫）において、下記の通り選定し、平成16年3月の第66回全国大会において表彰した。

(1) 大会優秀賞（12名）

櫻庭 洋平（京大）	笹田麻衣子（慶大）	佐藤 誠（東芝）
嶋津 恵子（富士ゼロックス）	伊達 宏昭（北大）	寺岡 照彦（三菱）
中村 章人（産総研）	鳴海真里子（慶大）	水島賢太郎（神戸女子短大）
宮崎 玲（東大）	渡辺 伸吾（YSP研）	渡辺 博芳（帝京大）

(2) 大会奨励賞（12名）

阿久津功朗（茨城大）	磯村 厚誌（名工大）	伊藤 修一（慶大）
大野 誠寛（名大）	加納 政芳（名工大）	小島 章（芝浦工大）
月江 伸弘（東京工科大）	中尾 恵（京大）	西村 竜一（奈良先端大）
森谷 俊洋（東北大）	吉原 一期（東大）	渡辺 英俊（NTTデータ）

15.8 優秀教育賞・優秀教材賞

教育賞選定委員会（委員長：寛 捷彦）において、下記の通り選定し、平成16年3月の第66回全国大会において表彰した。

(1) 優秀教育賞（1名）

高橋隆一（広島市立大）

(2) 優秀教材賞（1名）

伊東幸宏（静岡大）

15.9 学会活動貢献賞

総務財務運営委員会（委員長：松田晃一）において、平成15年度学会活動貢献賞として下記2名を選定し、平成16年3月の第66回全国大会において表彰した（「 」内：貢献対象）。

- ・滝沢 誠（東京電機大） 「多年に渡る論文誌への査読貢献」
- ・垂水浩幸（香川大） 「多年に渡る論文誌への査読貢献」

15.10 全国大会での感謝状贈呈

本会 Web サイトのリニューアルに当り多くの協力をいただいた次の 2 社に対して、平成 16 年 3 月の第 66 回全国大会において感謝状を贈呈した。

- ・(株)富士通インフォソフトテクノロジー，ならびに(株)富士通研究所

16．関連学協会・日本学術会議・その他関連団体関係

- (1) 電気・情報関連学会連絡協議会に参加し、各学会の共通の問題について意見交換を行った。
- (2) 平成 16 年 3 月 2 日（火）に開催された、日本学術会議 3 研連代表と電気・情報関連学会役員連絡会に益田会長ほか 2 名が出席し、概況報告および意見交換を行った。
- (3) 日本学術会議の平成 16 年度文部科学省科学技術研究費補助金の審査委員推薦に協力した。
- (4) 知的財産に関わる裁判のため、最高裁からの依頼に応じて専門委員を最高裁に推薦した。

17．事務局

平成 15 年度中の職員の異動は、退職 2 名で、年度末在籍者は 29 名（うち規格部門 9 名）であった。

以上